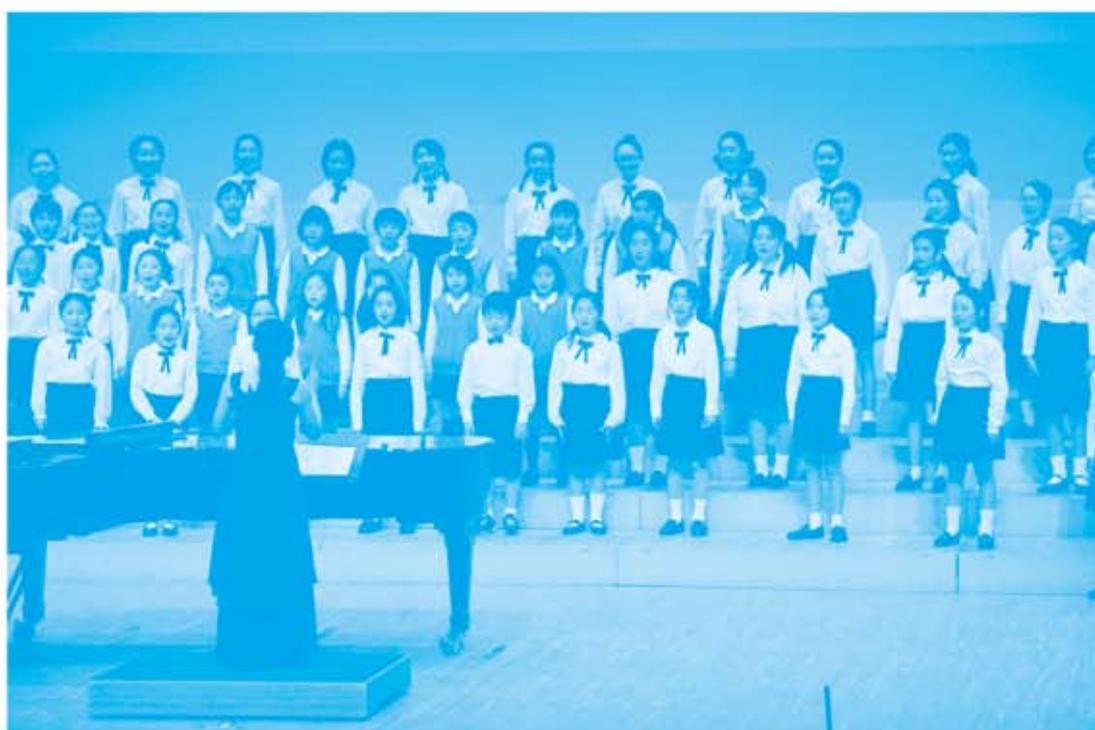


岩手県ユニセフ協会
2013年度

第1回理事会・評議員会

議案書



▲ 盛岡キャラホール少年少女合唱団コンサートで合唱・大槌キッズコーラスあぐどまめ
2013年2月11日

■ 日時 2013年3月27日(水) 13:30~15:00

■ 会場 プラザおでって 3F 大会議室

盛岡市中ノ橋通一丁目1番10号 電話 019-653-4417

岩手県ユニセフ協会

unite for
children

unicef 

プ ロ グ ラ ム

1. 日 時 3月27日(水) 13:30~15:00

2. 会 場 プラザおでって 3F 大会議室

3. (公財)日本ユニセフ協会 2年レポート
東日本大震災災害対策本部東北代表
学校事業部副部長 水野 眞里子さん

4. 次 第 開 会

あいさつ

議長選出

議事録署名人の選出

書記任命

議案の提案

第1号議案 2012年度事業報告・決算報告・監査報告の件

第2号議案 2013年度事業計画・収支予算(案)の件

第3号議案 岩手県ユニセフ協会役員に関する件

議長解任

閉 会

第1号議案 2012年度事業報告・決算報告・監査報告の件

はじめに

ユニセフは、子どもの権利条約に基づいて子どもたちの生存、成長、保護、参加の権利を守るために支援活動をしています。

一昨年、ソマリヤをはじめ「アフリカの角」と呼ばれるアフリカ東部を襲った過去60年間で最悪の大干ばつは、アフリカ中・西部のサヘル地域に拡大し、サヘル地域の子どもたちは、貧困が原因で慢性的な栄養不良や劣悪な環境の中で命の危機に晒され、ユニセフの継続的な支援が必要とされています。

ユニセフの「5歳未満児の死亡率を1990年の水準（1240万人）の3分の1に削減する」取り組みは、2012年には690万人に低減し大きく改善されました。しかし、多くの国々、特にアフリカや南アジアの国々では、いまだ子どもの死亡率は高いままで、近年子どもの死亡数減少において、ほとんどあるいは全く進展が見られない国もあります。

2012年度岩手県ユニセフ協会の活動は、ユニセフ出前講座、子どもたちの3・11ユニセフ東日本大震災写真展、ユニセフ・ラブウォーク、平和チャリティーコンサート、ハンド・イン・ハンド募金活動などに多くの子どもたちが参加し、世界の子どもたちへの支援の輪が大きく広がりました。

東日本大震災支援活動は2年目の活動となり、心理社会的ケア（心のケア）、子どもの保護、子どもにやさしい復興をめざし進められており、岩手県ユニセフ協会も日本ユニセフ協会と連携しすすめてきました。

被災地の子どもたちへの映画上映会、大槌保育園・幼稚園球根ボランティアのほか、福島の子どもたちの保養プロジェクト「夏だ！キャンプだ！inいわて」では学生ボランティアが活躍しました。

また、個人・団体からのユニセフ募金総額は、5,777,425円となりました。

1. 岩手県ユニセフ協会の運営

(1) 第1回理事会・評議員会2月28日、第2回理事会11月13日に開催しました。

(2) 経費は、日本ユニセフ協会との協力協定および協力協定細則に基づき、運営仮受金691,500円、地域普及仮受金2,086,822円、カード仮受金71,777円から支出しています。

東日本大震災支援仮受金は、被災地にスタッフを配置するなど支援活動に関わる費用です。

(3) 県協会の活動はボランティア延べ150名が参加し、ユニセフ出前講座・イベントへの対応をしました。12月ハンド・イン・ハンド募金活動には県内でボランティア1008名が参加しました。

日本ユニセフ協会の会議・研修会にも参加しました。

① 県協会の日常的な運営や企画の具体化を話し合う運営会議（構成：専務理事・常務理

事・ボランティアスタッフ)を年10回開催し、活動を円滑にすすめてきました。また花巻友の会は、毎月例会を開き、運営や活動の交流を深めました。

- ② いわて生協ユニセフ委員会は、作成した紙芝居を活用し、学校や地域のユニセフ出前講座に参加し、岩手県協会ボランティアスタッフと一緒に活動してきました。

- ③ 諸会議・研修への参加

2月16～17日 日本ユニセフ協会協定地域組織事務局長会議 (東京:ユニセフハウス)
事務局長 藤原綾子

6月7～8日 日本ユニセフ協会協定地域組織学習講師研修会 (東京:ユニセフハウス)
川村エイ 猿館佳恵

2. 募金活動と会員拡大に取り組みました。

- (1) 2012年度岩手県協会に寄せられた募金額は、5,777,425円と(年度目標1000万円)となっています。

- (2) 一般募金と指定募金

- ① 学校では、総合的な学習の時間に国際理解講座としてユニセフに取り組み「世界の子どもたちを知り、自分たちにできることを見つけよう」と資料・ビデオ学習し、ユニセフ募金に取り組みました。



- ② 花巻友の会は、2月13日会員のつどい、7月31日ユニセフ平和チャリティーコンサート、11月1日ユニセフバザーを開催、12月ハンド・イン・ハンド募金活動に取り組みました。

- ③ いわて生協は、お店に募金箱を設置、ファミリー募金、ハンド・イン・ハンド募金、書き損じ・未使用ハガキなどの取り組みのほか、カレンダー募金にも取り組みました。全国生協指定募金としてコープ商品の利用で「アンゴラの子どもたちにやさしい学校づくり」、ネパール指定募金にも取り組みました。

- ④ 各生協では、岩手県学校生協で「1万人ユニセフ募金活動」、盛岡大学生協学生委員会、みやこ映画生協、盛岡医療生協でユニセフ活動に取り組みました。県内生協ではユニセフ募金箱の設置をし、日常的な募金活動に取り組んでいます。

- ⑤ 募金贈呈式は、学校11校・3団体でした。
佐比内小学校、星山小学校、桜台小学校、矢沢小学校、若葉小学校、鬼柳小学校、小屋瀬小学校、笹渡小学校、盛岡スコーレ高校、大川目中学校、盛岡大学生協学生委員会、

立正佼成会教会青年部、ゆかわ脳外科スポーツクラブ、盛岡レオクラブ



⑥ ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉街頭募金活動）

今年度のテーマは「ワクチンで、守ろう小さな命。」、12月1日花巻友の会、12月15日いわて生協・岩手県学校生協・盛岡大学生協・岩手県ユニセフ協会が盛岡市内で実施し、ボランティア433名(内子ども402名)の参加、募金額は449,960円でした。

県内では、学校や諸団体、いわて生協が実施し、参加ボランティア1008名、1,007,595円の募金となりました。



(3) ユニセフ募金箱の設置

募金箱設置のご協力店・ホテルは花巻9ヶ所、盛岡9ヶ所となっており、年1回募金回収し、日本ユニセフ協会に送金しています。

(4) ユニセフ会員

新加入は7人、2012年12月末の会員は団体会員2件・一般会員199人・学生会員3人 合計204人となっており、盛岡・花巻中心の会員を全県に広めていくことが課題です。

3. 広報活動・開発教育に取り組みました。

(1) 広報活動

- ① ユニセフ視聴覚ライブラリーは学校中心に貸し出ししました。
- ② 日本ユニセフ協会発行の資料の活用
- ③ ユニセフ写真展・講演会等を通して、世界の子どもたちの現状を伝え、ユニセフへの理解と支援を広めてきました。
- ④ 岩手県ユニセフ協会ニュース3回・花巻友の会ニュースを3回発行
- ⑤ ホームページのメンテナンス

(2) 開発活動

- ① 学校や団体の要請に応え、ユニセフ出前講座は、洋野町立城内小学校2回、滝沢村立滝沢中学校、盛岡市立上田小学校、盛岡市立土淵中学校、金ヶ崎町立永岡小学校、盛岡スコーレ高校、西和賀町民大学で開催しました。学校募金贈呈式でもユニセフ活動のお知らせをしています。



- ② ユニセフボランティア養成講座は開催できませんでした。
- ③ ボランティア活動をすすめるための研修会は、東日本大震災支援活動をしている日本セラピー協会やCAP岩手おとなワークショップを岩手県協会ボランティアメンバーも受講しました。
- ④ 学生ボランティアは、被災地の支援活動と福島の子ども保養プロジェクト「夏だ！キャンプだ！inいわて」に参加し、支援のための研修にも参加しました。



4. 子どもたちの3・11ユニセフ東日本大震災報告写真展

3月1日～5日、多くの著名な写真家の方々、国内報道各社のご協力をいただき、この惨状と子どもたちの実情、そしてみなさまの募金によって展開されたユニセフ緊急支援、復興支援の様子を伝える写真展を盛岡市イオンモール盛岡イオンホールで開催しました。キャラホール少年少女合唱団による東日本大震災支援コンサートも開催するなど期間中1500名の来場者となり、子どもたち・ご家族連れをはじめ、大槌・山田・宮古・大船渡の被災者の方々にもご来場いただきました。



5. 第2回いわてユニセフ・ラブウォーク

5月20日、思い思いのペースで歩いた汗がユニセフを通じて開発途上国の子どもたちに役立てられるユニセフ・ラブウォークは、岩手県・盛岡市ウォーキング協会と共催し盛岡城跡公園から清流中津川河川で実施、親子参加も多く200名の参加で実施しました。「東日本大震災緊急募金」は、87,500円でした。



6. 花巻友の会 ユニセフ平和チャリティーコンサート

7月29日、一人ひとりの出会いを大切にし、お互いに支えあい、助け合って平和な未来をめざして第3回ユニセフ平和チャリティーコンサートをなはんプラザで開催しました。「賢治のこころ」をテーマに花巻農業高校・鹿踊り、不來方高校音楽部ほか市民コーラス(四つ葉・響流はなまき・絵本ライブ)の出演、最後は「精神歌」「ふるさと」を大合唱し感動のひとつきを過ごしました。ユニセフ募金は、40,852円でした。



7. 第11回「いわてユニセフのつどい」の開催

8月5日、「子どもたちに平和な未来を！」をテーマに世界の子どもの現状とユニセフ東日本大震災支援について、日本ユニセフ協会東日本大震災災害対策本部東北代表水野眞里子さんの報告と「あの日の広島をわたしのことばで」ご自身の体験記を兵庫県ユニセフ協会の竹本成徳会長に講演いただきました。

ユニセフの支援者と賛助会員など70名が参加し、「改めて世界の子どもの置かれている現状を知り胸が打たれました」「子どもにやさしいまちをつくらう」ということばに改めて震災復興支援の取り組みの視点を考えさせられた」

「竹本さんの報告は胸につきささる感嘆を受けた。問題は人口爆発と気候変動、戦争と核・原発問題を如何にして同時並行的に克服していくかである」など感想が寄せられました。東日本大震災「EYE SEE(子どもたちが見たもの)プロジェクト」写真展同時開催



8. 東日本大震災支援活動

日本ユニセフ協会の東日本大震災支援は、2年目にはいり心理社会的支援（心のケア）、子どもの保護、子どもにやさしい復興をめざした支援活動をすすめてきました。

災害対策本部盛岡事務所は縮小し、県協会も一体となって沿岸地区にスタッフを配置し行政・関係団体と協力し、プレイセラピー研修、CAPワークショップ、父子家庭支援、里親支援、大槌町づくりなどの活動に取り組んできました。



岩手県ユニセフ協会の支援活動

5月 田老映画祭 キッズシアター

5月 大槌保育園・幼稚園グラジオラス球根植え



7月 大槌町キッズコーラスあぐどまめと盛岡キャラホール少年少女合唱団の交流練習



8月 夏休み映画鑑賞バスツアー 沿岸10地区



8月 福島の子ども保養プロジェクト「夏だ！キャンプだ！inいわて」
岩手県生協連・福島ユニセフ協会共催



10月 大槌保育園・幼稚園チューリップ球根植え



2月 盛岡キャラホール少年少女合唱団コンサート、大槌町キッズコーラスあぐどまめ



9. ユニセフカード&ギフトの頒布

カード・グッズの取り扱いは、691, 730円となり、学校・地域・団体のイベントでご案内し、ユニセフを知っていただく機会ともなりました。代金の50%はユニセフ募金となっています。



10. 他団体との提携

- 10月14日 いわて生協まつり 福祉まつり
- 10月30日 岩手県消費者大会
- 11月18日 ワン・ワールドフェスタ in いわて 岩手県国際交流協会
- 11月29日 産直推進大会

2012年度 岩手県ユニセフ協会活動日誌

- 1月11日 ユニセフボランティア新春交流会
- 1月20日 第1回運営会議
- 1月24日 大槌町みどり幼稚園仮園舎落成式
- 1月27日 岩大附属中学校来訪
- 2月 9日 2011年度期末会計監査
- 2月10日 いわて生協ユニセフ委員会
- 2月11日 盛岡レオクラブ募金贈呈式
- 2月13日 花巻友の会つどい
- 2月14日 紫波町立佐比内小学校募金贈呈式
- 2月16～17日 全国協定地域組織事務局長会議
- 2月21日 紫波町立星山小学校募金贈呈式
- 2月28日 第1回理事会・評議員会
- 3月1日～5日 子どもたちの3・11 ユニセフ東日本大震災写真展
- 3月16日 第2回運営会議
- 3月22日 西和賀町民大学出前講座
- 3月24日 大槌吉里吉里保育園卒園式
- 3月28日 大槌町挨拶まわり 近藤智春フィールドマネージャー同行
- 3月29日 岩手県挨拶まわり
- 4月13日 第3回運営会議
- 4月14日 久慈市立大川目中学校募金贈呈式
- 4月26日 いわて生協ユニセフ委員会
- 5月 3日 大槌町づくり遊具贈呈式
- 5月10日 洋野町立城内小学校出前講座①
- 5月11日 第4回運営会議
- 5月20日 第2回ユニセフ・ラブウォーク in いわて
- 5月25日 陸前高田市 父子家庭支援研修
- 5月31日 大槌保育園・幼稚園球根ボランティア
- 6月 2日 福島子ども保護プロジェクト第1回実行委員会
- 6月 7日 ウィーン少年合唱団盛岡公演募金活動

6月7～8日 全国協定地域組織学習講師研修会
 6月12日 いわて生協総代会カード頒布
 6月15日 第5回運営会議
 6月17日 福島の子ども保護プロジェクト第2回実行委員会
 6月21日 岩手県生協連総会
 6月30日 立正佼成会盛岡教会青年部募金贈呈
 7月1日 インクルいわてシンポジウム
 7月8日 福島の子ども保護プロジェクト第3回実行委員会
 7月12日 滝沢村立滝沢中学校出前講座
 7月12日 第6回運営会議
 7月14日 大槌キッズコーラスあぐどまめ・キャラホール少年少女合唱団交流練習
 7月29日 ユニセフ平和チャリティコンサート（花巻友の会）
 8月5日 第11回いわてユニセフのつどい
 8月6～9日 夏だ！キャンプだ！inいわて（八幡平焼走り交流プラザ）福島の子ども保養P
 8月22日 いわて生協ユニセフ委員会
 8月25日 岩手県教育委員会・児童家庭課回り
 9月4～5日 北海道ユニセフ協会・ユニセフ東日本大震災報告
 9月13日 第7回運営会議
 10月12日 第8回運営会議
 10月12日 ゆかわ脳外科スポーツクラブ募金贈呈
 10月14日 いわて生協福祉まつり
 10月25日 大槌保育園・幼稚園球根ボランティア
 10月29日 洋野町立城内小学校出前講座②
 10月31日 岩手県消費者大会カード頒布
 11月1日 花巻友の会バザー
 11月3日 いわて生協宮古DORA復興まつりカード頒布
 11月9日 盛岡市立上田小学校出前講座
 11月13日 第2回理事会
 11月16日 第9回運営会議
 11月16日 矢沢小学校募金贈呈
 11月18日 ワン・ワールドフェスタinいわて
 11月24日 久慈コープ 出前講座
 11月26日 盛岡市立土淵中学校出前講座
 12月5日 金ヶ崎町立永岡小学校出前講座
 12月7日 第10回運営会議
 12月1日 2012ハンド・イン・ハンド 花巻市 3ヶ所
 12月15日 2012ハンド・イン・ハンド 盛岡市 7ヶ所

岩手県ユニセフ協会収支決算報告（2012年12月31日）

1. 収入の部

- (1) 運営仮受金・地域普及仮受金は、日本ユニセフ協会の仮受金として2,778,322円（予算比103.2% 年間予算2,691,500円）です。
- (2) カード仮受金71,777円は、2011年度のカード&ギフト販売額の15%です。
- (3) 東日本大震災支援仮受金は、900,000円です。

2. 支出の部

(1) 事業費

- ① 催事費は予算比132.0%の執行です。子どもたちの3.11ユニセフ写真展、ユニセフチャリティーコンサート、ユニセフ・ラブウォーク、ユニセフのつどいなどです。
- ② 資料制作費は予算比98.2%の執行となっており、岩手県協会ニュース、花巻友の会ニュース発行、活動集の作成費などです。
- ③ 通信運搬費は会員へのお知らせや、学校・団体への視聴覚教材・資料等の送付にともなう郵便代・宅急便代・切手代、電話代などです。予算比174.7%の執行です。
- ④ 消耗品費は、広報活動にかかわる封筒・文具等の購入によるものです。
- ⑤ ボランティア費は、ボランティアの啓発・募金活動を行う際にかかる交通費・ガソリン代などです。
- ⑥ 東日本大震災支援仮受金は、被災地支援に関わる経費です。

(2) 運営費

- ① 会議費は、理事会・評議員会・運営会議の会場費などです。
- ② 通信運搬費は、理事会・評議員会の開催にともなう切手代などです。
- ③ 消耗品費は、封筒・文具等の購入によるものです。
- ④ 印刷製本費は、理事会・評議員会・議案書作成によるものです。

【貸借対照表】

2012年12月31日現在

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
県協会 現金	276,517		
県協会普通預金	278,126		
県協会現金預金計		554,643	
花巻友の会 現金			
花巻友の会現金預金計		3,867	
流通資産計			558,510
2 固定資産			
什器備品	0		
固定資産計		0	
資産計			558,510
II. 負債の部			
1 流動負債			
預り金 ユニセフ募金	25,500		
預り金 カード・グッズ代	483,160		
流動負債計			508,660
III. 正味財産の部			
正味財産			49,850
負債及び正味財産の合計			558,510

収入の部

大項目	中項目	小項目	2012年度予算	2012年度実績	予算比%	実績 内訳		備考
仮受金収入						県協会	花巻	
	運営費仮受金		691,500	691,500	100.0%	591,500	100,000	前年1月～12月当該県の納入会費の50%
	地域普及費仮受金		2,000,000	2,086,822	104.3%	1,916,822	170,000	地域普及仮受金実施要項に基づく
	カード普及費仮受金		70,000	71,777	102.5%	71,777	0	カード取扱目標額の15%(2010,2011年度分含)
	特別事業費仮受金	東日本大震災支援	900,000	900,000	100.0%	900,000	0	
寄付金収入			0					
会費収入(独自)								
	公的機関からの補助金		0					
	民間からの補助金		0					
雑収入			0	106		92	14	預金利息など
募金仮受入金			0	25,500		25,500	0	予算化しません。
カード仮受入金			0	483,160		483,160	0	カード取扱額
小計			3,661,500	4,258,865		3,988,851	270,014	
前期繰越金			21,447	21,447	100.0%	18,617	2,830	
合計			3,682,947	4,280,312	116.2%	4,007,468	272,844	

支出の部

大項目	中項目	小項目	2012年度予算	2012年度実績	予算比%	県協会	花巻	備考
事業費			2,670,000	2,868,330	107.4%	2,614,945	253,385	
	啓発・募金活動費		1,770,000	1,970,155	111.3%	1,716,770	253,385	
		催事費	600,000	791,751	132.0%	608,607	183,144	催事実施費用、他団体との交流、募金活動
		資料制作費	200,000	196,489	98.2%	175,150	21,339	機関誌・募金報告書ほか資料作成費
		旅費交通費	120,000	104,352	87.0%	72,120	32,232	啓発・募金活動にかかる旅費と交通費
		通信運搬費	220,000	384,427	174.7%	367,757	16,670	事業に伴う郵送代・宅配代・切手代・電話代
		消耗品費	30,000	33,488	111.6%	33,488	0	啓発・募金活動にかかる文房具代
		ボランティア費	20,000	17,520	87.6%	17,520	0	ボランティア交通費・保険など
		アルバイト費	10,000	30,000	300.0%	30,000	0	臨時または定期的なアルバイト手当
		光熱水費	0	0		0	0	電気代・ガス代・水道代
		事務所借料	0	0			0	
			0	0		0	0	
		事務局スタッフ費	560,000	399,125	71.3%	399,125	0	専従スタッフの手当
		雑費	10,000	13,003	130.0%	13,003	0	啓発・募金活動にかかるその他経費
	特別事業費	東日本大震災支援	900,000	898,175	99.8%	898,175	0	東日本大震災支援に関わる経費
運営費			980,000	853,472	87.1%	837,880	15,592	
	会議費		50,000	96,125	192.3%	96,125	0	打合せ、お茶代
	通信運搬費		130,000	173,130	133.2%	173,130	0	日常業務に関わる郵便代・HP
	消耗品費		20,000	15,592	78.0%	0	15,592	文房具
	図書資料費		0	0		0	0	新聞購入
	印刷製本費		30,000	34,125	113.8%	34,125	0	議案書・日常書類作成
	水熱光費		0	0		0	0	電気代・ガス代・水道代
	賃貸料		0	0		0	0	
		事務所借料	0	0		0	0	
		OA機器リース料	0	0		0	0	
	備品購入費		0	0		0	0	
	交通費		180,000	113,500	63.1%	113,500	0	事務交通費
	事務局スタッフ費		560,000	395,000	70.5%	395,000	0	専従スタッフの手当
	雑費		10,000	26,000	260.0%	26,000	0	日常業務に関わるその他経費
	租税公課		0	0		0	0	
募金仮受金払い出し金			0	25,500		25,500	0	予算化しません。
カード仮受金払い出し金				483,160		483,160	0	県協会が取り扱った額の協会への送金
次期繰越金			32,947	49,850	151.3%	45,983	3,867	
合計			3,682,947	4,280,312	116.2%	4,007,468	272,844	

監査報告書

岩手県ユニセフ協会
会 長 三浦 宏 様

私たち監事は、2012年1月1日から2012年12月31日までの業務執行状況ならびに決算について監査を行いましたので報告いたします。

1. 日 時 2013年3月8日(金) 10:00~11:00
2. 会 場 秋山会計事務所
3. 対 象 2012年1月1日~2012年12月31日
業務執行状況ならびに財務諸表監査
4. 立会人 事務局長 藤原綾子 岩手県生協連 細川しのぶ
5. 監査報告 2012年度期末決算書につき、監査しましたところ適正に処理されておりましたので報告いたします。

2013年3月8日

監 事 秋山 信勝 

監 事 伴藤 慶子 

第2号議案 2013年度事業計画・収支予算（案）の件

岩手県ユニセフ協会は、2001年12月8日、すでに「(財)日本ユニセフ協会花巻友の会」として活動を推進していた花巻地域のユニセフ会員や、県内でユニセフ活動に取り組んでいる学校・生協・企業・諸団体のみなさまと手をつなぎ、「ユニセフ支援活動の輪を拡げていこう」と、国内で10番目の「(財)日本ユニセフ協会岩手県支部」を設立しました。

2011年4月1日、新公益法人法の下「公益財団法人日本ユニセフ協会」に移行し、これに伴い、日本ユニセフ協会と岩手県支部は「協力協定」を締結し、名称を「岩手県ユニセフ協会」に変更しました。活動をすすめていく上で、これまでの組織体制を継続し、県内におけるユニセフ活動の中心的な役割を果たし、岩手に根ざしたユニセフ活動をめざしてすすめてきました。

東日本大震災ユニセフ支援の地元組織として、諸団体・ボランティアメンバーとともに、引き続き被災地の子どもたちの支援に取り組んでいきます。世界中の子どもたちの未来のために、ユニセフ活動がもっと身近なものとして感じられ、参加できるような活動を広めていきます。

1. 募金活動と会員の拡大に取り組みます。

- (1) 一般募金の理解を広げ募金に取り組めます。
 - ① 広く県民、団体、企業に、ユニセフ活動を普及し募金協力を広げます。
 - ・各生協での、ユニセフファミリー募金、お年玉募金、指定募金の支援をします。
 - ・この間、ユニセフ募金に取り組んでいただいている企業・団体に、資料等を提供し、引き続き取り組みを呼びかけます。
 - ② 学校募金活動を広げます。
 - ・学校への資料提供、ユニセフ出前講座の講師派遣をします。
 - ・ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉街頭募金11～12月 花巻市、盛岡市）などで募金活動を呼びかけます。
 - ③ 外国コイン募金、古切手、書き損じハガキに取り組めます。
- (2) 日本ユニセフ協会からの呼びかけによる「緊急募金」に取り組めます。
- (3) 他団体との提携
- (4) 県内に友の会の組織作り
- (5) ユニセフ募金箱設置協力を呼びかけます。
- (6) 賛助会員として、ユニセフ活動を応援する会員拡大は、250人を超える会員になるよう取り組みます。募金額は1,000万円をめざします。

2. 広報活動・開発教育に取り組めます。

- (1) 広報活動
 - ① ユニセフ視聴覚ライブラリーの貸し出し
 - ② 日本ユニセフ協会発行の資料の活用
 - ③ ユニセフ写真展・講演会等を通して、世界の子どもの現状を伝え、ユニセフへの理解と支援を広めます。
 - ④ 岩手県ユニセフ協会ニュース・花巻友の会ニュースを年3回発行

⑤ ホームページの充実

(2) 開発活動

- ① 学校や団体の要請に応え、「ユニセフと地球のともだち」を気軽に学習できるユニセフ出前講座を実施します。
- ② ユニセフボランティア養成講座の開催 2013年2月、10月
- ③ ボランティア活動をすすめるために、研修会や交流会に参加します。
- ④ 学生ボランティアの運営参加と場づくりに積極的に取り組みます。

3. ユニセフ・写真パネル展

「貧しくも、明日に向かって生きる国」

～アグネス・チャン大使が見た“幸せの国”ブータンの素顔と幸せの源～写真展を開催します

日 時：2013年3月 盛岡市・花巻市

ブータンユニセフスタディツアー報告 梅澤明美さん

4. 第3回いわてユニセフ・ラブウォーク ～盛岡城跡公園から清流中津川遊歩道の散策～

思い思いのペースで歩いた汗がユニセフを通じて開発途上国の子どもたちに役立てられるユニセフ・ラブウォーク。参加費は世界の子どもたちへのユニセフ募金とします。

日 時：2013年5月19日（日）

会 場：盛岡城跡公園広場

コース：5km、10km

参加費：大人500円・子ども（18歳未満）200円

（共にユニセフ募金、保険の費用を含む）

共 催：岩手県ウォーキング協会、盛岡市ウォーキング協会

5. 花巻友の会「ユニセフ平和チャリティーコンサート」の開催

花巻友の会設立25年を記念し、お互いに支えあい、助け合って平和な未来をめざしユニセフ平和チャリティーコンサートを開催します。

日 時：2013年7月28日（日）

会 場：花巻文化会館大ホール

6. 第12回「いわてユニセフのつどい」の開催

目 的：「子どもたちにしあわせな未来を！」

活動交流と映画『大震災のあとに』

2011年3月11日に発生した東日本大震災。二週間後の仙台、松島、石巻を撮影した記録映画。決して忘れてはいけない被災地の記憶、被災者の声、児童108名中74名が津波にのまれてしまった石巻市大川小学校を中心に描かれています。

日 時：2013年9月28日（土）

会 場：盛岡市 プラザおでってホール

7. 東日本大震災支援活動

東日本大震災支援は、引き続き心理社会的支援（心のケア）、子どもの保護、子どもにやさしい復興をめざした支援活動となっていくます。

災害対策本部と連絡し、県ユニセフ協会が窓口となって被災地で活動するスタッフを2名を配置しすすめていきます。

岩手県ユニセフ協会が中心となり進める支援活動

- ・大槌町保育園・幼稚園の支援活動
- ・内陸部の子どもたちとの交流
- ・子どもたちに楽しい映画・ボードゲーム
- ・お父さんと一緒 一泊温泉保養

8. ユニセフカード・グッズの普及

- (1) 他団体との提携で、「ユニセフカード&ギフト」カタログ・チラシの配布
- (2) 各イベント会場で、「ユニセフカード&ギフト」の頒布

9. 他団体とのイベントに積極的に参加します。

- (1) 岩手県国際交流協会 ワン・ワールドフェスタ in いわて
- (2) いわて生協福祉まつり

10. 岩手県ユニセフ協会の運営

- (1) 理事会年2回 3月、10月 評議員会年1回 3月
- (2) 運営会議 年間10回

岩手県ユニセフ協会 2013年度収支予算書(案)

至2013. 1. 1~2013. 12. 31迄

収入の部

大項目	中項目	小項目	2013年度予算	内 容
協会からの仮受金収入				
	運営費仮受金		691,500	前年1月~12月当該県の納入会費の50%
	地域普及費仮受金		2,200,000	地域普及仮受金実施要項に基づく
	カード普及費仮受金		103,760	カード取扱目標額の15%(2012年度分含)
	特別事業費仮受金	東日本大震災仮受金	1,400,000	
寄付金収入			0	
会費収入(独自)				
	公的機関から補助金		0	
	民間からの補助金		0	
雑収入			0	預金利息など
募金仮受入金			0	予算化しません。
カード仮受入金			0	カード取扱額
小計			4,395,260	
前期繰越金			49,850	
収入合計			4,445,110	

支出の部

大項目	中項目	小項目	2013年度予算	備考
事業費				
	啓発・募金活動費		3,380,000	
		催事費	600,000	催事実施費用、他団体との交流、募金活動
		資料制作費	270,000	機関誌・募金報告書ほか資料作成費
		旅費交通費	150,000	啓発・募金活動にかかる旅費と交通費
		通信運搬費	280,000	事業に伴う郵送料・宅配代・切手代・電話代
		消耗品費	30,000	啓発・募金活動にかかる文房具代
		ボランティア費	20,000	ボランティア交通費・保険など
		アルバイト費	20,000	臨時または定期的なアルバイト手当
		光熱水費	0	電気代・ガス代・水道代
		事務所借料	0	
		OA機器リース料	0	
		事務局スタッフ費	600,000	専従スタッフの手当
		雑費	10,000	啓発・募金活動にかかるその他経費
	特別事業費	東日本大震災支援費	1,400,000	東日本大震災支援に関わる経費
運営費				
			1,020,000	
	会議費		60,000	打合せ、お茶代
	通信運搬費		130,000	日常業務に関わる郵便代・HP
	消耗品費		20,000	文房具
	図書資料費		0	新聞購入
	印刷製本費		50,000	議案書・日常書類作成
	水熱光費		0	電気代・ガス代・水道代
	賃貸料		0	
		事務所借料	0	
		OA機器リース料	0	
	備品購入費		0	
	交通費		150,000	事務交通費
	事務局スタッフ費		600,000	専従スタッフの手当
	雑費		10,000	日常業務に関わるその他経費
	租税公課			
募金仮受金払い出し金			0	県協会が取り扱った額の協会への送金
カード仮受金払い出し金				
小計				
次期繰越金			45,110	
支出合計			4,445,110	

第3号議案

岩手県ユニセフ協会役員に関する件

任期満了による改選期ですが、県内のユニセフ活動を推進していくために引き続き岩手県ユニセフ協会の役員としてお願いいたしたく、以下のとおり提案いたします。

2013年3月27日現在（敬称略 50音順）

役 職	お 名 前	役 職 名
顧 問	達 増 拓 也	岩手県知事
顧 問	村 田 源一朗	(株) 岩手日報社相談役
会 長	三 浦 宏	(株) 岩手日報社代表取締役社長
副 会 長	加 藤 善 正	岩手県生活協同組合連合会会長理事
	藤 井 克 己	岩手大学学長
専務理事	内 澤 祥 子	いわて生活協同組合副理事長
常務理事	安 藤 厚	元岩手県教育委員長
	反 町 久 美	いわて生活協同組合常務理事
	高 橋 克 公	岩手県学校生活協同組合専務理事
	林 正 文	岩手県ユニセフ協会花巻友の会会長
	向井田 郁 子	盛岡消費者友の会
	守 谷 祐 志	岩手県青年海外協力隊を育てる会理事
理 事	石 川 育 成	(社) 岩手県医師会会長
	稲 葉 暉	岩手県町村会会長
	及 川 公 子	NPO法人岩手県地域婦人団体協議会会長
	小 川 彰	岩手医科大学理事長
	金 谷 茂	(社) 岩手県PTA連合会会長
	鎌 田 英 樹	(株) IBC岩手放送代表取締役社長
	佐 藤 滋 樹	(株) 岩手めんこいテレビ代表取締役社長
	柴 崎 一 恵	もりおか女性の会会長
	瀬 川 玲 子	岩手県ユニセフ協会花巻友の会副会長
	高 橋 清 之	岩手県中学校長会常任理事
	谷 藤 裕 明	岩手県市長会会長
	富 永 健 治	(株) 岩手朝日テレビ代表取締役社長
	豊 卷 浩 也	岩手県教職員組合中央執行委員長
	檜 崎 憲 二	(株) テレビ岩手代表取締役社長
	○長谷川 泰 弘	立正佼成会盛岡教会教会長
	増 子 義 孝	岩手県立大学名誉教授
	道 脇 清 文	NHK盛岡放送局局長
	宮 澤 啓 祐	宮沢賢治記念会理事長・花巻商工会議所会頭
	横 沢 幹 雄	岩手県小学校長会会長
監 事	秋 山 信 勝	秋山会計事務所所長
	伊 藤 慶 子	岩手県消費者団体連絡協議会事務局長
評 議 員	泉 田 将 治	岩手県青年団体協議会会長
	上 田 高	岩手県高等学校教職員組合執行委員長

及川	サチエ	岩手県退職女性校長会顧問
大内	豊	盛岡タイムス社社長
小田島	順造	岩手県私学協会会長
小野寺	晶子	国際ソロプチミスト盛岡
○海鋒	徹哉	(社) 日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長
川村	宗生	(株) 川徳代表取締役社長
桑島	博	(社) 岩手県社会福祉協議会会長
小菟米	葉子	盛岡ゾンタクラブ会長
柴田	昭彦	盛岡ライオンズクラブ会長
金野	耕治	岩手県労働組合連合会議長
高橋	克彦	作家
高橋	和雄	岩手県高等学校長協会会長
田沼	征彦	岩手県農業協同組合中央会会長
千葉	庄悦	岩手県商工会連合会会長
千葉	仁一	岩手県市町村教育委員会協議会教育長部会長
智田	恵子	盛岡パイロットクラブ会長
長坂	由美子	いわて生活協同組合理事
内宮	眞	日本ボーイスカウト岩手連盟事務局長
平井	ふみ子	(社) ガールスカウト日本連盟岩手県支部支部長
村田	憲正	(株) エフエム岩手代表取締役社長
八幡	博文	日本労働組合総連合会岩手県連合会事務局長
	(欠員2名)	

○2012年度第2回理事会（2012年11月13日）以降に所属団体の役員変更に伴い新たに就任された役員の方々です。



岩手県ユニセフ協会規約

第1章 総 則

前 文 岩手県ユニセフ協会は、公益財団法人日本ユニセフ協会と岩手県ユニセフ協会との協力協定に基づき設立される。

(名 称)

第1条 本会は、岩手県ユニセフ協会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を岩手県滝沢村に置く。

2 本会は、理事会の議決を経て、必要な地に従たる事務所を置くことができる。

(目 的)

第3条 本会は、公益財団法人日本ユニセフ協会（「日本ユニセフ協会」）との協力協定に基

づき、岩手県において、日本ユニセフ協会の定款目的を実現することを目的とする。

(活 動)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) ユニセフのための広報・啓発活動
- (2) ユニセフへの協力(募金)活動
- (3) 県内支援者、募金協力者、地方自治体、関係団体との協力
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な活動

第2章 運 営

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

- (1) 理 事 30名以内
- (2) 監 事 2名以内

(選 任)

第6条 理事及び監事は評議員会において選任し、理事の中から互選で次の役職者を選任する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 3名以内
- (3) 専務理事 1名
- (4) 常務理事 若干名

(職 務)

第7条 会長は本会を代表し、その業務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時にはその職務を代行する。
- 3 専務理事は会長の意を受けて本会の業務を掌理する。
- 4 常務理事は理事会の議決に基づき、必要に応じて本会の業務を掌理する。
- 5 理事は理事会を構成し、本会の業務を議決し、執行する。
- 6 監事は本会の会計及び業務執行状況を監査する。

第3章 理事会

(権 能)

第8条 会長は毎年2回以上理事会を開催し、この規約に定めるもののほか、以下の事項について決議し、理事会の議長として理事会を運営する。

- (1) 本会の事業計画と予算案
- (2) 本会の事業報告と決算
- (3) 本会の役員選出
- (4) その他本会の業務に関する重要事項

(定足数)

第9条 理事会は、理事の3分の2以上の出席を要し、委任状をもって代わりとすることができる。

(議 決)

第10条 理事会の議決は、出席した理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第4章 評議員会

(評議員)

第11条 本会は評議員25名以上40名以内を置く。

2 評議員は、理事会で選出し、会長がこれを委嘱する。

3 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。補欠または増員により選任された評議員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

(評議員会)

第12条 評議員会は毎年1回以上開催する。

2 評議員会は、会長の諮問に応じ、必要な事項について審議し、助言する。

3 評議員会の議長は、評議会において互選する。

第5章 財産及び会計

(財産の管理)

第13条 本会の財産は会長が管理し、その方法は理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日から12月31日までとする。

(事務局)

第15条 本会の事務を処理するために事務局を設け、理事会の議決を経て事務局長を置くほか、積極的にボランティアの参加を得るものとする。

第6章 規約の変更及び解散

(規約の変更)

第16条 この規約は、理事会及び評議員会において、それぞれ理事現在数及び評議員現在数の4分の3以上の議決を経なければ変更することができない。

(解散)

第17条 本会は、理事会及び評議員会において、それぞれ理事現在数及び評議員現在数の4分の3以上の議決を経て解散することができ、残余財産については日本ユニセフ協会に寄付するものとする。

第7章 賛助会員

(賛助会員)

第18条 本会の主旨に賛同し、支援する個人又は団体を賛助会員とすることができる。

2 賛助会員は、本会の運営に関し、何らの権利及び義務を有しない。

3 賛助会員に関する必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

第8章 補 則

(補 則)

第19条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

付則:この規約は2011年4月1日から施行する。

※公益財団法人日本ユニセフ協会が登記された日をもって実施日とする。



イトーヨーカドー花巻店でハンド・イン・ハンドの募金を呼び掛ける生徒ら

花巻の中学生ら
募金呼び掛け

ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」

日本ユニセフ協会東支
部花巻友の会（林正文会

長）は1日、花巻市内の大型ショッピングセンタ―など3カ所で街頭募金活動を行った。市内の中学生がボランティアで参加し、貧困や病気に苦しむ世界の子供たちのため

に支援を呼び掛けた。国連児童基金（ユニセフ）の第34回ハンド・イン・ハンドに合わせた取り組みで、会員や花巻北中、南城中の生徒ら約70人が参加し、イトーヨーカドー花巻店、アルテマールカン枝台店、花巻農協農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」で活動を展開した。

生徒が募金箱を持ち「協力お願いします」と呼び掛け、訪れた買い物客に善意を募った。参加した花巻北中の菊池美佐さん（3年）は「皆さんに募金してもらえてありがたい」と話していた。

ハンド・イン・ハンドは、世界の子供たちの幸せと明るい未来を実現させるため、市民がボランティアに参加する身近な国際協力活動。同市では同会が毎年実施している。今回の活動で集まった募金12万9831円は、同会を通じて日本ユニセフ協会に送られる。

2012.12.2 岩手日日



ユニセフ募金への協力を市民に呼び掛ける高校生ボランティアら

世界の子支援を
盛岡で街頭募金

県ユニセフ協会

長・三浦宏岩手日報社社長）は15日、盛岡市

内では街頭募金活動ハンド・イン・ハンドを行なった。発展途上国など世界の子どもたちのワクチン接種を支援することを目的に、中学生と大学生のボランティア約360人が市内8カ所で活動した。

同市大通2丁目のMOSSビルでは、不来方高など4校の生徒ら約50人が活動。「世界の子どもたちのために協力お願いします」と、寒さを吹き飛ばすような元気な声で市民に呼び掛けた。

募金活動に参加したアンハ・ジェニーさん（不来方高1年）は「他の国の子どものことを考えてくれる人が大勢いた」、初森真雪

さん（同）は「小さな人が募金してくれ
子から大人までたことと手応えを語った。

2012.12.16 岩手日報

戦争や貧困

5歳未満の死 4秒に1人

世界の現状に理解

永岡小でユニセフ講座

金ケ崎町立永岡小学校(木村徹校長、児童101人)で5日、町国際交流協会によるユニセフ講座が開かれた。県ユニセフ協会の職員らが講師となり、世界の国々で子どもたちがどのような暮らしをしているのか、自分たちの生活と比較しながら理解を深めた。

す▽一家の働き手として働かなければならぬ

い▽戦争で両親を失うなど、さまざまな環境で暮らす子どもたちの映像に真剣な表情で見入った児童たち。

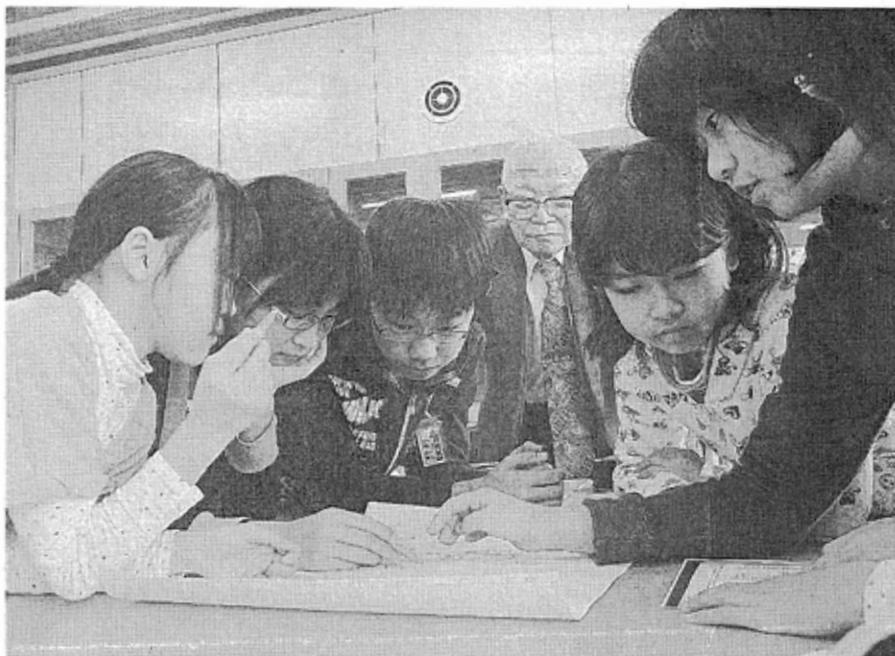
6年の石川博斗君(11)は「世界ではあまり食料もなく、戦争で住む家がない人もたくさんいることが分かったと驚きの表情をみせた。地球上では、5歳未

満の子どもの4秒に1人の割合で命を失っている現状を説明。5歳未満児死亡率で地図上の国の色分けに取り組んだ5年の佐藤拓規君(10)は「死亡率の高い国が」アフリカ大陸に集中している。戦争や栄養不足がなくなり、

「くくなる子どもが少なくなるよう、頑張ってほしい」と願った。藤原事務局長(69)は「地球上に住むお友達の暮らしを知り、自分たちの生活を見つめ直し、できることがないか考えるきっかけにしてほしい」と期待。町国際交流協会の佐藤菊男会長

(80)は「世界の国々の子どもたちと仲良くというのが国際交流。国際理解が深まることで、地球上から戦争をなくそうという気持ちをもってもらえるよう、これからも国際交流協会として取り組んでいきたい」と話した。

講師は、県ユニセフ協会の藤原綾子事務局長とボランティアの松田道子さん、県学校生協の晴山由記さんの3人。5、6年生29人が映像や紙芝居、体験作業を通し、発展途上国に暮らす子どもたちの生活に触れた。



5歳未満児死亡率ごとに世界各国を色分けしていく永岡小児童たち

2012.12.7 胆江新聞

矢沢小児童が ユニセフに寄付

1/20 花巻

花巻市の矢沢小学校（上野秀雄校長、児童454人）の児童会福祉委員会は14日、「世界の困っている人たちのために役立てて」と1万6161円をユニセフ募金に寄付した。

た浄財の半分をユニセフに送ることにした。



寄付は、同校で行われ、福祉委員会委員長の佐々木美桜さん（6年）と同書記の奥村咲さん（同）が、県ユニセフ協会花巻友の会の林正文会長に託した写真。

同校では長年ユニセフ募金への協力を続けており、林会長は「早速、本部に送ります」と感謝した。

2013. 1. 20 岩手日日

カレンダー展の 益金を4団体へ

盛岡レオC寄付

盛岡レオクラブ（小苺米希実会長、会員11人）は23日、世界のカ

レンダー展の益金80万円を県ユネスコ協会連盟、盛岡ユネスコ協会、県ユニセフ協会、県復興局総務課の4団体・機関に寄付した。それぞれが「有効に使わせていたたく」と感謝した。

式で小苺米会長は「市民の真心がこもったお金を社会貢献や復興につなげていただけなら」とあいさつした。同クラブの代表スポンサー、盛岡不來方ライオンズクラブの吉田浩次会長は「クラブの命は社会奉仕。社会にどれだけ役に立つか。この益金についても、さまざまな角度で広く活用されば」と願った。

催。会員らから寄付されたカレンダーを販売し、益金を得た。この取り組みは今年で30周年を迎えた。



カレンダー展の益金目録を贈呈する小苺米会長（右）

2013. 2. 25 盛岡タイムス

ブータンの素顔写す

盛岡で
パネル展 授業風景など40点

県ユニセフ協会（会長・三浦宏岩手日報社長）による写真パネル展「『貧しくも、明日に向かって生きる国』〜アグネス・チャン大使が見た『幸せの国』ブータンの素顔と幸せの源〜」は1日、盛岡市中ノ橋通り丁目のプラザおでっで始まった。3日まで。

日本ユニセフ協会のアグネス・チャン大使がブータンの首都ティンブプーの小中学校、ブナカ県の僧侶学校など、を視察した際に撮影した写真パネル約40点を展示。教育を重視するブータンの授業風景や、ユニセフが支援する大人の識字教室の様子などを伝える。

一方、学校へ行かず、家計を助けるために野菜を売って生活する少年の姿も。藤原綾子事務局長は「幸せの国と援を待っている子どもはたくさんいる。支援を今後も継続したい」と意気込みを語る。



授業風景など40点を展示。教育を重視するブータンの授業風景や、ユニセフが支援する大人の識字教室の様子などを伝える。

2013. 3. 2 岩手日報

ブータンの首都ティンブプーや農村の子どもたちの現状を伝える写真パネル展

「『貧しくも、明日に向かって生きる国』と意義を語る。」

1日は、いわて生協ユニセフ委員長の梅沢明美さんによるブータンスタディツアー報告も行われた。

写真パネル展は午前10時から午後5時（最終日は同3時）まで。入場無料。5日からは花巻市愛宕町の妙円寺でも開催される。

「幸せの国」笑顔きらり

花巻・妙円寺 ユニセフ写真パネル展

県ユニセフ協会の写真パネル展「貧しくも、明日に向かって生きる国」は、花巻市愛宕町の妙円寺（林正文住職）で開かれている。「幸せの国」として世界の注目を集めるブータンに暮らす人々の表情が、鑑賞者に、感銘と幸せについて再考するきっかけを与えている。

林住職は「貧しく厳しい生活の人も多いようだが、一生懸命、心豊かに生きていく様子がよく分かる。子供たちの表情がいい。日本人が学ぶことはたくさんある」と話し、感心しきりの様子。東日本大震災で被災し苦勞を重ねている人にも見てもらいたいという林住職の意向で、展示は同寺で震災に合わせた法要が営まれる11日まで開かれる。



妙円寺で開かれている写真パネル展

2013. 3. 6 岩手日日

展示は午前10時〜午後5時。問い合わせは同寺 01988(23)5439まで。

2012年度 岩手県ユニセフ協会

ハンド・イン・ハンド

世界にはワクチンで守れる小さな命、支援を待っている子どもたちは多くいます。2012年9月、ユニセフは一年間に亡くなる5歳未満の子どもの死亡数が690万人と発表しました。

第34回ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動—約45万円の募金とボランティア433名参加
今年の活動テーマ:「ワクチンで、守ろう小さな命。」小さな命を守ろうと、12月1日花巻市3会場、12月15日盛岡市8会場で実施しました。中学生・高校生・大学生・一般などボランティア433名(子ども参加402名)が参加しました。当日のユニセフ募金額は44万9,960円でした。
ユニセフ募金にご協力いただいた方々、ボランティア参加の皆さん、施設を提供して下さった方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。



▲ 紙芝居で事前学習し募金活動スタート……イオンモール盛岡南にて



▲記念撮影 イオンモール盛岡南にて



▲募金して下さった親子連れ —イオンモール盛岡— ▲募金を呼びかけるボランティアの皆さん



▲クリスマスの仮装で募金の呼びかけ —アネックスカワトク前— ▲募金終了後に記念撮影



▲募金を呼びかけるボランティアの皆さん ▲ —カワトク前—

●盛岡の会場には、ボランティアの申し込みが殺到……。

7会場(カワトク・クロステラス・MOSS ビル・アネックスカワトク・イオンモール盛岡・イオンモール盛岡南・ホットライン肴町を予定していましたが、希望者が多かったのewithて生協ベルフ牧野林を追加して8会場で実施しました。

中学生は、引率の先生も参加。午前中に部活をやったあとにかけつけたり、手薄な事務局をサポートしてくださいました。本当に皆さん、ありがとうございました。

●生徒さんたちから寄せられた感想を抜粋して紹介します。

○募金を通して、ユニセフについてより詳しく知ることが出来たし、貧しい子どもたちを救おうと募金してくれた方々の温かい気持ちも身を持ってすることが出来ました。本当に良い経験ができたと思いました(高校生)。

○普段の生活ではできない貴重な体験。人の善意の心にふれることができ良かった(大学生)。

○「募金をお願いします」と声をかけると募金して下さった方々がたくさんいて嬉しかったです。ある方が「えらいね。頑張ってるね。」と声をかけてくださいました。小さなお子さん連れの家族、お年寄りの方々も多くの人たちが募金をしてくださいました。

○呼びかけを無視されることもあり残念でした。また、機会があれば参加したいです(中学生)。

○募金活動に初めて参加しました。一生懸命呼びかけたところ、たくさんの方が寄付して下さり、うれしかったです。ミニニンジンの種のチラシを配布したら喜んでくれました。1000円札を入れて下さった方もいて、自分も心が温かくなりました。また、ぜひ参加したいです(中学生)。

「祈りのツリーづくり」おとうさんといっしょに！！

東日本大震災により、ひとり親となった子どもの数は、岩手県で481人（2012年3月28日現在）に上っています。

遺児の中でも、被災により父子家庭となった子どもたちは、家事・育児を主に担ってきた母親を失い、きびしい状況に置かれています。

2012年12月2日、宮古市内のショッピングセンター「マリンコープDORA」で『お父さんと一緒にオーナメントをつくろう！』と呼びかけ、参加した20組の親子のうち、6割がお父さんと一緒に参加でした。



トナカイ、ツリー、ブーツ、ボール、ハウスの5種類のオーナメントから好きな形を選び、白い厚紙でできた型を組み立てて、自由にペンや色紙、キラキラシールを貼ったり、お父さんも真剣なまなざしで一緒に作りました。「おとうさんといっしょにつくって、たのしかった」という女の子、ツリーにかざる男の子、お母さんは、「ゆっくりお買い物ができてよかった」など楽しいひとときでした。



▲できあがったオーナメントにごきげんな子どもたち、家族で記念写真をパチリ!▲

岩手県ユニセフ協会東日本大震災支援スタッフの福士久美子さんは、保育園・幼稚園におさそいチラシを配布、そのせいもあり、多くの参加者に思わずにっこり。全国から参加したボランティアのみなさんと一緒に、県ユニセフ協会の藤原事務局長も参加しました。

日本ユニセフ協会では、被災地の父子家庭支援の取り組みの一つとして、今回の「祈りのツリー」づくりを開催しました。

来年も被災地の子どもたちに寄り添いながら支援活動に取り組んでいきます。

ユニセフ出前講座「土淵中学・永岡小学校」

ユニセフ出前講座を「盛岡市立土淵中学」で実施しました
ユニセフ出前講座を「金ヶ崎町立永岡小学校」で行いました

●盛岡市立土淵中学校で「世界の子ども現状」と「水くみ」の体験学習

2012年11月26日、盛岡市立土淵中学校(校長鈴木恒夫)において、「ボランティア学習」として、全校生徒117名の参加で「ユニセフ出前講座」を実施しました。県ユニセフ協会のボランティアスタッフの梅澤明美さん、松原杏寿さん(ネパール出身)、藤原綾子事務局長、遠山あゆ子スタッフが参加しました。同校は毎年12月ハンド・イン・ハンド街頭募金活動に参加しており、隣接の土淵小学校とともにユニセフ活動の支援をいただいています。

出前講座では、ユニセフDVD「この世界に生きる子どもたち」を観て、世界中の子どもたちが置かれている状況を学びました。続いてネパール出身の松原杏寿スタッフがサリーをまとい、子どもの頃にやった「水くみ」のことを話しました。そして、ネパールで使われている水がめを実際にかつぐ「水くみ」体験しました。生徒たちは、世界には、遠くの川や池からくんできた水も汚れていて、下痢や病気になる子どもたちがたくさんいるということを知りました。また、家族を守る「殺虫剤処理をした蚊帳」に実際に入り、マラリアの原因となる蚊の怖さと蚊帳の大切も学びました。出前講座に初デビューの遠山あゆ子スタッフは、生徒たちに「家族・地域・世界のつながり」の大切さを語りかけました。



▲初デビューの遠山あゆ子スタッフ



▲水がめを肩に乗せ、水くみ体験(右端:松原)



▲マラリアを防ぐ蚊帳を体験中の生徒たち

■生徒たちの感想が多く寄せられました

○自分たちにとっては蛇口をひねれば出てくる水を、毎日1時間・2時間もかけてでも水くみに行くことを必要とする国もあるのだと再認識した。そのくらい大切な水を自分はどう使っているのか考えさせられた。また、私はまだ13歳だが5歳までも生きられない子どもが世界にはいるということがわかった。今日のこの会をきっかけに自分のボランティア意識を高めていきたい。とくに身近な水の節約、自分たちの募金したお金が実際にどのようなことに使われているのかも知れてよかった。(1年生・女子)

○僕は普段の生活の中でたまに不満を持ちたりもするけれど、今回のボランティア学習会で世界の多くの地域では恵まれない子どもたちがたくさんいることを知って、今の生活でも十分に幸せだということがわかった。エイズなどの病気で苦しんだり、紛争に巻き込まれたり、子どもたちが望んでいないことが起こっている現状がわかりました。少しでも募金などのユニセフの活動に参加するようにしたいです。(2年生・男子)

○世界には学校に行きたくても行けない子どもたちがいることがわかった。私は学校がいやだとかいっていたけど、学校に通えない子どもたちのためにもしっかりと学校で勉強したいと思いました。ユニセフは子どものための機関だというのがわかった。ビデオを見て、子どもなのに戦場で戦わなければならない子どもがいてかわいそうだと思った。大人の事情で振り回される子どもがいることは、子どもの権利条約を守っていないと思う。(3年 女子)

●金ヶ崎町立永岡小学校で金ヶ崎町国際交流協会によるユニセフ出前講座を開きました

2012年12月5日、金ヶ崎町立永岡小学校(校長木村徹)において、小学5、6年生29名を対象に、金ヶ崎町国際交流協会によるユニセフ出前講座を開講しました。当日は、岩手県ユニセフ協会のボランティアスタッフ松田道子さん、県学校生協の晴山由記子さん、藤原綾子事務局長たちが講師になり、DVD「ユニセフと地球のともだち」と紙芝居を実演しました。続いて、ワークショップ「5歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもたちの状況」、「水くみ体験」などを行いました。「亡くなる子どもの数」で色別に塗られた地図を見ながら、児童たちは、「世界には、きれいな水がない。食べるものもない子どもたちもおるんだ」「亡くなる子どもがアフリカ地域に多いね」などの感想を出し合いました。

金ヶ崎町国際交流協会の佐藤菊男会長は、「世界の人たちと仲良くというのが国際交流です。私たちは、これからもボランティア活動や途上国の援助に取り組んでいきたい」と話されました。



▲地図に亡くなる子どもの数別に色分けする子どもたち

ユニセフ出前講座「岩手大学教育学部

ユニセフ出前講座：岩手大学教育学部社会科教育科「人権と教育」の一環で開催

2013年1月31日、岩手大学教育学部社会科教育科の「人権と教育」の一環として、子どもの権利条約で規定されている「子どもの権利」についての出前講座を行いました。担当の菊地洋准教授と学生たち17名が参加してくれました。岩手県ユニセフ協会のボランティアの松田和彦と工藤景子、事務局の遠山あゆみスタッフと藤原綾子事務局長が参加しました。最初に、「ユニセフとの協力60年」と「子どもの権利条約」のDVDを鑑賞しました。

次に、学生たちによる寸劇「あき子の家」の実演(学生のみなさんの演技はすばらしい～の一語に尽きます)を通して、子どもの権利について「守られている権利」と「守られていない権利」について話し合いました。続いて、子どもの権利条約の中から、大切にしたいカード8枚を選び出し、4つのカテゴリーに当てはめ、発表してもらいました。最後に「子どもの権利を守るユニセフの活動」と「東日本大震災支援におけるユニセフの取組み」について藤原事務局長から報告しました。いじめや暴力などが問題となっている昨今の風潮の中で、ワークショップに取り組んだ学生のみなさんの真剣な態度にスタッフ一同大変感心しました。



▲寸劇「あき子の家」にはどんな問題が？



▲グループで真剣に話し合う学生のみなさん



▲子どもの権利条約 4つのカテゴリーは……

<受講生からの声>

- これまでの授業のいわゆる「法」の観点からの講義に比べ、より子どもの人権の観点からの講義内容でとても興味深かったです。具体的には「法」の内容を分かり易い文で説明してあるので、われわれ大学生だけでなく、幅広い年齢層に理解を求めることができるので、かなり良い内容だったと思います。(教員養成課程、社会3年男子)
- 子どもの権利条約ひとつひとつを見ることが今までなかったので良い体験となった。ワークショップを通じて実際に考えることができた。私が子どもだった時には権利など意識したことはなかったが、関係のないものではなく、これからは自分たちが保障する側になっていかなければならないと思った。(教員養成課程、社会3年女子)
- 子どもの権利条約の内容に対する理解がより深まりました。子どもを守る立場として、今後意識していきたいと思った。また、震災への支援を知ることができ、とても勉強になりました。(教員養成課程、社会4年女子)
- 今回ユニセフの方に来ていただき、「子どもの権利条約」について学ぶ機会をいただいたのですが、そこから学ぶ事は子どもたちが選べる道は限られているということです。日本で生活していて気づかない点が多く、やはり世界では保障されなければいけない権利が守られていないことがたくさんあるという点が大変ショックでした。子どもが大人になった時に本来選べる道を選ぶことができるように、大人達がよりよい社会をつくっていかなければならないと思いました。(生涯教育課程、4年女子)

ユニセフ募金贈呈とユニセフ学習

2013年2月1日、軽米町立笹渡小学校 JRC 活動のひとつとして「資源回収の収益金」をユニセフ募金として寄付していただきました。感謝状の贈呈と世界の子どもたちの状況やユニセフの支援について学びました。5・6年生は社会科の授業で龍泉洞の水で経口補水塩を作って飲んでみたり、水がめで水くみ体験にも挑戦し、「家の手伝いも大変だ」「募金を恵まれない子どもたちに届けたい」と話していました。



2013年2月5日、葛巻町立小屋瀬小学校(菊池育子校長)で、全校児童28名が視聴覚室に集まり、児童会の代表からユニセフ募金に寄付していただきました。感謝状を贈呈後、「ユニセフと地球のともだち」のDVDを見て、発展途上国の子どもたちの現状とユニセフの支援の状況を学びました。



2013年2月26日、紫波町立星山小学校(中里恵利子校長)ユニセフ集会で、今年度児童会で取りくんだユニセフ募金贈呈とユニセフの支援する「水と衛生」について学び、手洗い紙芝居を見たり全員で手洗いダンスをしました。



▲藤原綾子事務局長とボランティアスタッフ工藤景子さん

岩手県ユニセフ協会「ユニセフ・写真パネル展」報告

ユニセフ・写真パネル展:「貧しくも、明日に向かって生きる国“ブータン”」報告 ～アグネス・チャン大使が見た“幸せの国”ブータンの素顔と幸せの源～

(公財)日本ユニセフ協会(東京都港区)のアグネス・チャン大使のブータン視察の写真展は全国で開かれています。岩手県ユニセフ協会(岩手郡滝沢村)では、「貧しくも、明日に向かって生きる国～アグネス・チャン大使が見た“幸せの国”ブータンの素顔と幸せの源～」と題する写真パネル展を、2013年3月1日～3日、盛岡市の「プラザおでっ」において、3月5日～11日、花巻市の「妙円寺」において開催しました。この写真展には、延べ約500名の子どもたち・ご家族連れに参加いただきました。来場者から、「とても衝撃的で、今の私たちに欠けているものなどを考えさせられました」「かなり貧しい国なのに日本にない心の豊かな国だと思います」など感想が寄せられました。また、盛岡会場では、2010年6月に実施の「ユニセフ・ブータンスタディツアー」に参加したいわて生協の梅澤明美ユニセフ委員長による、「ブータンの水と衛生と教育」について視察報告と来場者との意見交換も行いました(※報告資料は別掲)。



▲お母さんから説明をきく子どもたち



▲暴風雪の中、ご参加いただいた親子

<参加者の感想の紹介>

- ブータンは「幸せの国」というイメージでしたが、かなり貧しい国であることを知りました。ただ、心の豊かさは日本にはない素晴らしいものであると感じた。一度行ってみたい!
- のどかさそうですね。なつかしい昔の日本の風景に似ていました。教育や衛生の改善にユニセフが役立っている様子が伺えてよかったです。
- 美しい写真とわかりやすいコメントでよかった。テレビで見た女の子も写っていたので親しみを感じた。現地に行った方の報告もあり、理解を深めることができ、日本も少しはブータンを見習って方向修正をしたほうが良いと思った。
- このような催事を今後も広く行ってください。日本の子どもたちのためにも、世界の子どもたちのためにも、ブータンのGNP(国民総生産)ではなくGNH(国民総幸福量)の理念は、地球上に生きる人類社会の持続可能な開発と未来社会に結びつける必要があろう。資本主義的なグローバルリズムを排し、GNHのもうひとつのグローバルリズムがユニセフ運動であり、日本の未来を担う子どもたちには地球市民に育ててもらおう働きかけが肝心と思う。
- 「幸せとは今よりも良くなる明日を信じることだ」とアグネス・チャン大使が感じた思いをわが国の政治家に伝えたい。



▲梅澤明美さんから説明を受ける来場者



▲早期幼児ケアセンターの子どもたち

<参考資料:ユニセフ・ブータンスタディツアーに参加して 盛岡会場配布>

梅澤 明美 岩手県ユニセフ協会元常務理事・いわて生協元常務理事

2010年6月27日から1週間、ユニセフ・ブータンスタディツアーで、ヒマラヤの王国ブータンに「水と衛生」「教育」について視察する機会に恵まれました。

今回参加して実感したのは、日本ではあたりまえのように水道の蛇口を開ければきれいな水が飲み、水洗トイレが使用でき、毎日のように風呂に入れることが、どんなに恵まれ幸せな事だということでした。

仏教国ブータンには、200以上の僧院があり、3000人以上の孤児や片親で貧しく親が育てられない家庭の子ども達があります。今でも多くの僧院のトイレは、寮から離れた所に穴を掘った間に合わせのもので、皮膚病や寄生虫によって、下痢などの病気が発症しています。今回の視察の目的は、ユニセフの支援によってトイレとシャワー室を設置するプロジェクトの、1年目の成果を確認することでした。

私達が訪れたシャリバンガ僧院学院の生徒たちは、孤児や片親で貧しく家庭で育てられない子どもたちです。「以前の穴掘りトイレは、臭く蚊に刺されて体中が痒く下痢などの病気になって大変だった。今は、シャワーを浴び、食事の前やトイレの後にも手を洗うことができるようになった」と、心からの感謝の気持ちを伝えてくれました。また、親が識字教育を受けている間に、子どもたちは幼児教育を受け小学校に行く準備ができるという「早期幼児ケアセンター」も役立つものでした。

このような形でユニセフ募金が役立ち、住んでいる人々の健康や命を支えていることに感動を覚え、一人でも多くの方に、ユニセフの活動を知ってもらいたいと心から思いました。



▲シャリバンガ僧院学院(前から2列目右端梅澤さん) ▲僧院学院内のポスター(手洗い・トイレの使い方)

事務局

岩手県ユニセフ協会

〒020-0180 岩手郡滝沢村土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail:sn.iunicef.iwate@todook.jp

